

須坂市文書館年報

第 7 号

2024(令和 6)年度版



須坂市文書館

目 次

I 須坂市文書館の概要

- 1 設立の目的
- 2 基本業務
- 3 沿革
- 4 職員体制
- 5 施設の概要
- 6 利用案内

II 2022 年度事業概要

- 1 文書等収集、整理及び保存
 - (1) 収蔵史料等の状況
 - (2) 目録整備の状況
- 2 文書等の閲覧及びその他一般の利用
- 3 調査・研究及び普及・啓発事業
 - (1) 文書等の紹介展示
 - (2) 刊行物の発行等
 - (3) 関係機関等との連携事業

III 収蔵史料

- 1 須坂市域の史料とその概要
- 2 移管行政文書等所蔵件数
- 3 もんじょ紹介一覧

I 須坂市文書館の概要

1 設立の目的

歴史資料として重要な文書、資料その他の記録(以下「文書等」という。)を収集及び保存し、広く一般の利用に供することで、開かれた市政運営に資する。

2 基本業務

- (1) 文書等の収集、整理及び保存に関すること
- (2) 文書等の閲覧及びその他一般の利用に関すること
- (3) 文書等に関する調査及び研究に関すること
- (4) 文書等に関する知識の普及及び啓発に関すること

3 沿革

年度		月	概要
2018	平成 30	3	須坂市誌別巻 年表編を刊行し、市誌編さん事業が完結する
			市史編さん室を廃止する
			須坂市文書館条例及び関係例規を制定する
2019	令和 1	4	須坂市文書館開館
		4～	もんじょ紹介展示「吉池一彦家文書」
		4～	もんじょ紹介展示「小田切家の山林」
		4	もんじょ紹介No.21「市川幸夫家文書」
		5	もんじょ紹介No.22「小田切幸一家文書（追加分Ⅰ・Ⅱ）から
		7	歴史文化講座「西郷隆盛 因縁ばなし」江戸東京博物館名誉館長 竹内誠氏
		10	須坂市文書館の一般利用を開始
2020	2	2	須坂市域の史料目録 第10集刊行
		～8	もんじょ紹介展示「吉池一彦家文書」
		～8	もんじょ紹介展示「小田切家の山林」
		8～	もんじょ紹介展示「坂田近右衛門家文書」
		10	歴史文化講演会「須田満親の生涯」長野県立歴史館専門主事 村石正行氏
		11	もんじょ紹介No.23「坂田近右衛門家文書」
2021	3	2	須坂市域の史料目録 第11集刊行
		8～	もんじょ紹介展示「終戦記念『寫眞週報』－『寫眞週報』にみる戦時中における政府の広報宣伝－
		8	もんじょ紹介No.24「小田切家の山林所有と経営」
		12～	もんじょ紹介展示「大谷町区有文書から」
2022	4	12	須坂市域の史料目録 第12集刊行
		～5	もんじょ紹介展示「大谷町区有文書から」
		6	古文書講座を一般・職員等の部に分け、各部月1回開催を開始
		7～	もんじょ紹介展示「須坂に残る戦争資料展」－国策宣伝ポスター類と『寫眞週報』－

		7	もんじょ紹介No.25「終戦記念『寫眞週報』－『寫眞週報』にみる戦時中における政府の広報宣伝－
		11	須坂市域の史料目録 第13集刊行
		12	文書館収蔵文書等を紹介するブログ「文書館だより」を月2回、市公式ポータルサイト「いけいけすざか」内に掲載開始
		1～	もんじょ紹介展示「田中・田中下屋敷のアーカイブ」
		1	もんじょ紹介No.26「田中・田中下屋敷のアーカイブ」－明治・大正期の史料を中心に－
2023	5	5～	もんじょ紹介展示「村長が遺した写真」－明治・大正・昭和の日滝村点描－
		7～	もんじょ紹介展示「2023 須坂に残る戦時資料」展－国策宣伝ポスター類と関連『寫眞週報』－
		7	もんじょ紹介No.27「2022 須坂に残る戦争資料」展－国策宣伝ポスター類と『寫眞週報』－
		7	もんじょ紹介No.28「2023 須坂に残る戦時資料」展－国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』－
		7	歴史文化講演会「仁禮災禍の記憶 ～巡礼～」目黒照久氏
		10	歴史文化講演会「須坂町の変遷」～須坂藩邸跡地・常盤町を中心に～北島袈裟則氏、河野精一氏、山下徹氏
		11	須坂市域の史料目録 第14集刊行
		3～	もんじょ紹介展示「相杜神社有文書・塩川町区有文書から」
		3	もんじょ紹介No.29「相杜神社有文書・塩川町区有文書から」
2024	5	6～7	もんじょ紹介展示「信州須坂町並みの会文書から」
		7～9	もんじょ紹介展示「2024『須坂に残る戦時資料』展－ポスター・絵葉書・写真類と著名画家たち」
		7	もんじょ紹介No.30「2024『須坂に残る戦時資料』展－ポスター・絵葉書・写真類と著名画家たち」
		9～ 10	もんじょ紹介展示「須坂市制70周年記念展『所蔵資料に見る須坂市誕生と町村合併の歴史』」
		9	もんじょ紹介No.31「須坂市制70周年記念展『所蔵資料に見る須坂市誕生と町村合併の歴史』」
		11	須坂市域の史料目録 第14集刊行

4 職員体制

館長:1人、専門員:1人、学芸員:1人(認証アーキビスト)、事務員:3人(全て会計年度任用職員)
兼務3人(文化財係)

5 施設の概要

事務室 24.7㎡ 史料整理室 53.7㎡(内 閲覧コーナー 約17.9㎡)
展示室 24.9㎡ 研修室 38.6㎡

書庫 19.2 m² 土蔵 19.5 m² 物置 19.5 m² 計 200.1 m²

※文化財活用倉庫(文化財係、市立博物館と共用) 約 500 m²

6 利用案内

(1) 休館日

- 土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 12月29日から翌年の1月3日

(2) 開館時間

- 午前9時から午後5時

(3) 文書閲覧等利用の流れ

① 須坂市文書館文書等閲覧・複写・撮影申請書を提出

② 須坂市文書館文書等閲覧・複写・撮影許可など決定

※申請書提出後、概ね10日以内に文書館から連絡する。

- 個人情報等の記載のある文書は、閲覧等の利用ができない場合がある。
- 所有者の意向により、複写等が許可されない文書がある。

③ 文書閲覧などの利用

※文書等の貸出は原則行わない。

Ⅱ 2024年度事業概要

1 文書等収集、整理及び保存

(1) 収蔵史料等の状況

資料等分類		前年度末	当該年度増減	当該年度末
移管行政文書(非現用公文書)		7,313点	2,036点	9,349点
移管収集文書(関係団体等文書)		29点	0点	29点
古文書	所蔵文書(寄贈・購入等)	31,561点	367点	31,928点
	寄託文書	13,698点	2点	13,700点
	複製文書	7,224点	0点	7,224点
	計	52,483点	369点	52,852点
収集資料		277件	4件	281件
図書		5,551	△159冊	5,392冊

(2) 目録整備の状況

古文書等について「須坂市域の史料目録」として目録整備を行った。

名称等(須坂市域の史料目録)	所有状況	点数等(点)
山寄良枝家文書	寄贈	52
上松徹家文書	寄託	1
関野幸子家文書	寄贈	82
新田町区有文書	寄託	1

2 文書等の閲覧及びその他一般の利用

	前年度	2024年度

利用者	143 人	153 人
うちレファレンス対応	28 人	23 人
行政関係利用	0 件	1 件
計	143 人(件)	154 人(件)

3 調査・研究及び普及・啓発事業

(1) 文書等の紹介展示

収集・整理を行った古文書から「もんじょ紹介」展示を文書館展示室で行った。

展示名	展示期間
信州須坂町並みの会文書から	6 月 20 日～7 月 15 日
2024「須坂に残る戦時資料」展 ーポスター・絵葉書・写真類と著名画家たちー	7 月 19 日～9 月 8 日
須坂市制 70 周年記念展 「所蔵資料に見る須坂市誕生と町村合併の歴史」	9 月 13 日～10 月 31 日

(2) 刊行物の発行等

ア 須坂市域の史料目録第 15 集を刊行

イ もんじょ紹介(冊子)の発行

No.30:2024「須坂に残る戦時資料」展 ーポスター・絵葉書・写真類と著名画家たちー

No.31:須坂市制 70 周年記念展 「所蔵資料に見る須坂市誕生と町村合併の歴史」

(3) 古文書講座の開催

一般の部 7 名、職員等 10 名 各クラス月1回開催

(4) ブログ「文書館だより」発行

市公式ポータルサイト「いけいけすざか」内でブログ「文書館だより」を、月 2 回発行したほか、展示情報などを発信した。

(5) 関係機関等との連携事業

園里郷土資料館への展示協力

市川幸夫家文書及び市川喜太郎家文書から延べ 236 点を貸出

Ⅲ 収蔵史料

1 須坂市域の史料とその概要

番号	史料名	主な内容
001	中澤吉四郎家文書 (須坂市指定有形文化財)	中澤吉右衛門の町役人、家業に関するもの、初代須坂町長長男吉四郎の町政に関する記録類(戸籍、租税、訴訟・警察、議会・勸業会、規則・規定、社寺など係)、吉四郎家家業に関する記録類などが主なものである。須坂町は明治 22 年に戸長役場の火災でほとんどの行政文書を焼失したこともあり、大変貴重なものである。
002	小田切幸一家文書	幕末期から糶屋・油屋・糸師・呉服商を営み、町年寄、須坂藩の御用達を勤めていた 12 代小田切辰之助と弟武兵衛にかかわる史料がほとんどで、明治初年から 10 年代に作成されたものである。史料の多くは製糸・蚕種経営のものであるが、金融、銀行関係史料もある。

	小田切幸一家文書 追加分Ⅰ	最初の文書目録の史料より古い史料として、寛政～文化・文政～天保期の史料があり、本文書最古の史料は寛政 3 年(1791)3 月の「上下(かみしも)着用者書上覚」である。明治期では、地租改正地券や字上町外の町内絵図がある。大正・昭和期では、所有土地台帳、借家・小作人調べ台帳など経営に関わる史料がある。
	小田切幸一家文書 追加分Ⅱ	最古は安永 8 年(1779)10 月の「借用申金子之事」であり、江戸期の資料群のほか、明治期から大正期の史料として、繭購入に係る貨物送券、繭売買控書など製糸経営関係のほか、小作帳関係、銀行関係営業報告などの史料がある。また、昭和期の史料では、経済活動を示すものがある。
	小田切幸一家文書 追加分Ⅲ	明治期から昭和期の新聞、諸史料、学習ノート、書簡等が主なものである。諸史料には、茶道、華道の許上、免状などがある。
003	永田正夫家文書	幕末から昭和前期までの永田家の冠婚葬祭・出征帰還諸費控帳があり、賄などの推移がわかる。また萬控えは明治 38 年から 40 年代までの記録がされているほか、明治 34 年度の豊丘村役場から区長への通知・連絡の 50 枚ほどの簿冊がある。このほか、江戸期の史料として、市川出水の際の水防規定の請書などがある。
004	(欠番)	
005	上高井教育会文書	上高井誌関係資料では、国県市町村の統計書、文書類として昭和 10 年代からの郷土史研究の諸調査・報告書のほか、野辺、坂田などの地詰帳などの古文書がある。また地図類では、郡役所に提出された明治期の道路、水路などがある。このほか、昭和 27 年撮影のGHQ の航空写真、昭和 10 年代に撮影された神社仏閣の文化財や文書史料等の写真がある。教育関係資料もある。
006 -(1)	坂本康之家文書	初代から 11 代にわたって続く大地主・豪農の系譜をひく坂本家の正徳 2 年(1712)以降の史料で、享和元年(1801)幕府 24 か村の取締役、後の中野代官所管内の郡中取締役としての関係資料などがある。北信幕府領支配の実態解明には不可欠の史料群として、特色ある史料である。
006 -(2)	坂本康之家文書	文政年間から明治 21 年までの当主が記した詳細按日記や、同家の人々が交わした書状類が多数含まれている。また、坂本家は幕末期には江戸での金融活動にも参画しており、江戸町人社会の実態や江戸と須坂の関係を示す都市史史料としての性格を持つ。
007	(欠番)	
008	山岸治家文書	幕末から明治～昭和にかけての土地関係の史料が多くあり、土地を集積しながら、農業経営者として大きく成長してきたことが判る。また太平洋戦争中等の史料として、軍隊関係書類があり、特攻隊員として戦地に赴く山岸邦夫(6 代勇の父)が、両親や妻に宛てた遺書がある。
009	森ゆり子家文書	代々須坂藩士として目付け役も勤めた森家に伝わる史料で、武士としての心構え(兵法、武士道など)、たしなみ(和歌など)の史料のほか、辞令・賞典、森家に関する系図などがある。
010	大日向町区有文書	昭和期の戦時体制の動きに対応した大日向区の動向をつかめる史料のほか、灰野川の度重なる災害、その治水史料がある。また、戦後の復興に関する史料、仁礼村と豊丘村が合併して東村になった経過と基本計画書、地図類などがある。
011	野平祐治家文書	野平野平(道正)、野平道周(平太郎)親子に関わるものが主で、江戸末期の須坂藩や

		明治初期の須坂町の動向に関わる史料である。とりわけ直虎の祐筆として側近であった野平の手記は直虎の死の原因や背景を研究する上で欠かせない史料である。
012	須坂高等職業訓練校文書	須坂高等職業訓練校の発足から平成 19 年度の閉校まで 47 年間の資料で、企画運営、教育指導訓練、会計経理などに係る資料である。
013	米持町区有文書	1000 点を超える土地税制史料のほか、河川道路土木史料の中に百々川・鮎川の氾濫による水災地復旧関係史料などがある。また、教育文化史料の中には青年会に関する史料もある。
014	土屋武廣家文書	江戸末期から明治時代に活躍した初代土屋栄七から三代までの、家業(米穀業、蚕糸業)・土地所有・金融関係などや公職(町役人、町会議員)関係の史料である。
015	窪田司家文書	窪田氏が区民に呼びかけ収集した大正、昭和の刊行物、写真類が主なものである。写真館が撮影した大正期の山丸組製糸関係、蚕児雌雄鑑別などは年月の記載のある資料である。
016	相之島町区有文書	共有地関係史料が多く、共有地の経営や活用の方法にかかわる共有割替地史料や洪水との共生・かわかりを示す水防災・水利・土木史料などがある。また、村全体の基本史料である行財政・治安や土地税制のほか、絵図などの関係史料が多数ある。
017	堀内秀雄家文書	若干の地主経営に関する私文書もあるが、ほとんどが堀内家の名主に関わる福島村関係文書である。土地・税制関係史料のほか、村政・治安・宿場関係、土手普請・土木関係の史料がある。宿駅であった福島村には、村方三役のほか宿駅を経営する本陣・問屋役があったが、名主は本陣・問屋役と役割分担しつつ村の経営を任されていたためか、宿駅関係文書は少ない。
018	九反田町区有文書	村の共有地と村民による小作料収納関係文書が多く、寛永 7 年(1630)を初出に 300 余点の江戸時代の年貢関係文書がある。土地・税制文書は、江戸時代の年貢割り付けとその皆済目録を主としており、行財政文書は村の経費と小作料取立等について、土木・土地文書は鮎川・市川(百々川)を主とした水防災・土木などについてである。このほか、時々の河川の推移や住居・耕地の移動等がわかる絵図がある。
019	小林忠治家寄贈	新聞類が中心であり「北信新報」・「須坂新報」・「須坂市報」・「須坂新聞」が年度あるいは号数の区切りで整理、製本されている。また国会議員・県会議員・市長・農業委員などの選挙関係綴りがある。
020	中島町区有文書	寛保 2 年から明治 7 年までの年貢割付状・同皆済目録のほか江戸期の川除け普請出来形帳、田畑起返手当金割渡し帳などがある。また、明治以降では、地租改正関係史料のほか、大正期の新百々川改修工事(暗渠排水工事ほか)や賦銭大賦銭取調帳関係史料がある。
021	山下徹家文書	古くから薬種商として活躍し、幕末にいたっては藩御用達格として藩を支えてきた山下八右衛門関係史料であり、慶安期を始めとする史料のほか、18 世紀以降の史料が大半である。山下家私家・経営、須坂藩・内外風聞、文化・宗教、典籍などの史料があり、薬種商関係史料として『新刊万病回春』、『薬品手引草』などがある。また、晩晴吟社に関する畔上聖誕関係史料、伊勢講、『皇朝史略』(典籍)などがある。

022	浦野治郎家文書	江戸後期から明治初期の史料が主であり、須坂市新町で生計を営む商家としての私文書と茂市・太郎右衛門時代の町年寄・戸長・町用掛など役職上必要な文書類である。浦野幸静(太郎右衛門)が天保15年(1844)1月から嘉永6年(1853)7月までの10ヵ年分の須坂藩や町方の動向を安政2年(1855)に11ヵ月かけて筆写した「御用并町方留」5冊のほか、「生糸製造規定」、「会社検査糸位等級表」など器械製糸初期の史料や御嶽教関係資料などがある。
023	高梨町区有文書	江戸期から明治期までの史料が主であり、土地税制史料には、江戸期、大正・昭和期の土地台帳の名寄帳がある。また、引高覚は、文政8年から明治3年まで23点ある。行財政・治安史料には、村定、幕末の冠婚葬祭の俵約規定がある。用水堤防普請史料には、中島村新土手訴訟などの史料がある。
024	斎藤和義家文書	斎藤家の名主文書が中心で、天明期～文政期の史料が主である。北国街道と大笹街道の分岐点に位置する宿駅福島村関係文書として、年貢関係史料や御条目、五人組請書などのほか、享保8年(1723)11月の入会山関係文書などがある。
025	太子町区有文書	太子町の形状の変遷を示す文政10年(1827)の屋敷絵図、明治初年の太子町絵図などがある。太子信仰に関わる史料では、江戸期の文書と寛文6年刊の『聖徳太子傳』などがある。行政史料では、夫銭割合帳などの区会計諸帳簿類と明治・大正期の消防関係書類がある。信仰史料はほとんどが太子祭と太子殿等の修復関係書類である。
026	井上町区有文書	江戸期から昭和期にわたる大史料群である。行財政史料には代官所と村とのかかわりを示す史料として、代官所からの廻達文書が書き写された「御公用留帳」のほか、賭博、悪党取り締まり、俵約のほか百姓の生活規制、奉公人江戸出稼ぎ等の史料がある。土地・税制史料のうち江戸期では、年貢割付・同皆済目録が多く、明治期では、地租改正関係の類外地のほか丈量誤謬調査に関する史料もある。
027	塚田茂博家文書	江戸期から昭和期に及ぶ史料群である。名主家文書等福島村関係史料のほか、北国街道宿駅史料、千曲川通船関係史料、千曲川西向かい側に位置する福島新田村(明治19年屋島村)との関係を示す史料がある。また、市川・鮎川落合水除け場所をめぐる中島村との係争史料(明治11年)もある。
028	境沢町区有文書	江戸期の史料は少なく、明治期・大正昭和期が主なものである。明治期では、土地関係、水害関係史料が多い。また、水害に伴う消防・衛生活動史料、井戸・水道などの史料もある。このほか、兵役その他史料として煙火打揚願(入営祝賀)などの史料がある。
029	村山町区有文書	江戸期では、新田改め等土地改出帳、御触書・法度・村定など、明治以降では、地券帳、村境約定書、堤防普請関係などがあり、昭和期では「村山区記録 巻」などがある。共有地関係として江戸期・明治期では、百々川筋の水防や用水、福島村などとの境界出入に関わる史料が多い。大正期以降では、共有地持株に関する史料や千曲川改修工事関係史料、共有地年貢支払簿などがある。
030	八重森町区有文書	江戸時代の史料は少ないが、元文3年(1738)の絵図は、縦185cm、横318cmの大判絵図で百々川をはさんで八重森村と村山村の家の場所や田畑の分布が描かれている。区関係史料はほとんどが昭和期で区費徴収のための基礎資料などがある。土地関係史料では、高山村の入会山に関する史料が多く、用排水路工事関係史料や「農村総合整備モデル事業」関係史料のほか高速道関係史料などがある。

031	沼目町区有文書	江戸期から昭和期までの史料があり、江戸期では、元禄 12 年(1699)に書写した寛永 5 年(1628)9 月の「沼目村地詰御帳」のほか、江戸期全般を通じての名寄帳などがある。明治期では、村方規定書や規約書(堤防修築に関する三部落規約)などがあり、昭和期では、区費や小作料関係史料がある。このほか涅槃絵像や薬師堂に関わる史料がある。
032	福島町区有文書	江戸期から昭和期までの史料があり、江戸期では伝馬宿証文、北国街道宿駅関係史料、千曲川流路変更による共有割替地史料・境界争論史料や絵地図のほか御用達金・拝借金・困穀・俵約書上帳等の村の経営に関する史料がある。明治期では壬申地券調査段階の田畑の面積調査「野帳」や地租改正関係史料があり、大正・昭和期では割替え・共有地や荒地・起返し関係史料ある。また、元禄 14 年福島村絵図や「天神社縁起」など神社関係史料がある。
033	菅平牧場畜産農業協同組合文書	史料は昭和 23 年からのものが主である。明治期では沿革(灰野牧畜改良会社設立)や北信産牛馬組合定款などがある。昭和期では、組合の運営関係がおもで、乳牛・役牛・馬の放牧台帳や観光開発、保養所関係の史料もある。また『菅平牧場百年史』が昭和 58 年に刊行され、その際に収集された複写文書などもある。
034	五閑町区有文書	江戸期の史料は「為取替之事(村山・五閑村両村川払規定)」ほか数点で、明治期、昭和期の史料が主である。明治期では、「地租改正御達」、「百々川伐拂規約書」、五閑村名簿、神社合併願などの史料があり、昭和期では、公会堂建設関係や区の運営関係の史料がある。
035	岡村博文家文書	江戸期の名主文書などから明治・大正期の郡役所期までの史料群である。江戸期では、文化 8 年から嘉永 7 年の「公私両用日記帳」、天保期の「歳中日記帳」などの史料がある。明治元年から戸籍区のものでは、第三十八区関係史料としての壬申地券作成史料や学校設立関係、大区小区期のものでは、二十数か村提出文書や民費、土地丈量・村等級作成などの史料がある。郡役所開所期のものでは、「方寸誌」や小作帳などのほか、連合戸長役場関係史料などもある。
036	原稔家文書	明治から大正期までの史料である。明治 11 年(1878)から大正 6 年(1917)にかけての小山村、坂田・豊丘村を合併した新小山村関係などの村会議案や会議書類綴などの史料のほか、市川の水害防止関係の「市川堤防工事費仕送帳」などの史料がある。なお、江戸時期の名主文書などは、別に整理されている。
037	小林敏生家文書	幕末から明治維新时期にわたる須坂藩士要右衛門季定関連の史料である。剣術関係では、「直心影流究理巻校合本 藤原直虎」、「同源季定」の史料がある。また、須坂藩士関係としては、「御広間本席被仰付け」、「若殿様御納戸役」などの史料がある。このほか「総督府御兵」、「戊辰山道之官軍章典」、「馬車乗用之証」などの史料がある。
038	佐藤英治家文書	近世初期からの史料が見られ、天文 15 年(1546)年の「戸石城攻め感状」「武田晴信発信文書」、永禄 11 年(1568)の「軍役下知状」や慶長期の「信濃国高井郡八重森村検地帳」、「信州四郡草山年貢帳」などの史料や、享保期では、公用留帳や安政期の改革にまつわる雑税金割合帳などの史料がある。また、須坂藩への献金・才覚金などに対する藩からの褒状もある。明治・大正期では、廃藩置県前の東京出府日記、借用証文などの史料がある。

039	日滝史蹟保存会文書	日滝村の江戸期から昭和にかけての史料群である。江戸期では、元和 6 年(1620)の「日滝村地詰之帳」、寛政期の用水出入り一件、文化文政期の久離・帳外しなどの史料がある。明治期では、水車設立・故障をめぐる裁判関係史料、役場関係諸史料、消防史料、本郷区戸籍や財政関係史料などがある。昭和期では日中戦争から太平洋戦争への時代の動向を示す昭和 18～20 年の史料と終戦直後の史料があり、また、このほか健御名方神社に係る神社関係史料がある。
040	竹前源治家文書	江戸期における名主など村役職の折の史料が中心である。江戸期では、寛文 13 年(1673)の譲渡し証文「相渡申手形之事」、「信濃国高井郡米子村高反別書上帳」、「高井郡米子村硫黄山明細書上帳」などのほか、年貢関係文書、質地証文、借金証文などの史料がある。
041	市川喜太郎家文書	寛永 12 年(1625)7 月の「灰野村地詰帳」を初出とする近世から近代・現代にわたる広範囲な史料群である。幕末から明治期に灰野村・園里村内の重鎮として活躍した市川佐治右衛門関係史料が多い。江戸期では、須坂藩領関係文書として名寄帳・新田改帳、献上金、御触書写覚帳など藩の苦しい財政を窺わせる史料がある。明治期以降では、地租改正関係史料のほか新溜池開発や灰野牛関係史料があり、さらに時代がたつと北信産牛馬に組合史料がある。
042	田中本家文書	万延元年(1860)前後の須坂藩との関係史料としての才覚金調達請取史料のほか藩重鎮との関係を示す書簡が多数ある。また、明治 3 年前後の田畑小作地や貸家等を大量に質入れ地としている史料のほか、幕末から明治期にかけての田中本家地主経営の側面を示す明治 30 年代の土地台帳もある。なお、田中本家史料としては「田中家文書目録(1)、(2)」が存在する。
043	仁礼会文書	旧仁礼村と旧栃倉村に関わる文書のほか仁礼村・仙仁村等 11 か村入会からなる入会山関係文書の史料群である。幕府領年貢関係の「信州高井郡栃倉村御検地帳」や「信州高井郡栃倉村新田御検地帳」などがあり、栃倉村文書の年貢割付・同皆済目録は寛文元年から明治元年までの期間のものがある。松代藩領仁礼村に関しては、天保 3 年以降の皆済目録が史料「覚」としてあるほか、文久元年の皇女和宮下向助郷史料や松代藩騒動後の組織内取極議定一札などがある。明治期以降では、地租改正関係帳簿のほか、徴兵国民軍・戸籍帳や丈量誤謬訂正関係文書があり、このほか入会山関係史料がある。
044	返町昭男家文書	幕末から大正時代までの史料である。幕末から明治初年に相森新田の名主を勤めた 7 代目彦右衛門と 8 代目本重郎時代の記録が主で、早害常襲地である相森を含めた日滝原への引水をめぐって高井野村と繰り返した水争いや日滝村内で起きた水車問題に関する記録等がある。また、絵図では地租改正、地券交付に不可欠な絵図等のほか、明治初年の相森住民の氏名入り絵図などがある。このほか、宗門改帳、日露戦争後に新設された溜池工事に係る史料がある。
045	旧丸田医院文書	明治 20 年～昭和 16 年頃までの、医院経営に関わる書類と医学関係の書籍・雑誌、写真類による史料である。医院経営にかかわるものは、金銭出納帳、投薬記録などの帳簿類が主であるが、投薬記録には、工女たちへの投薬記録をはじめ、主な製糸工場別の投薬記録がある。医療関係書籍・雑誌には丸田喜助自筆写本「山本氏解剖学 内臓編」のほか、江戸末期の写本と推定される「薬微」、「口中秘方」がある。

046	山岸善澄家文書	明治維新期の戊辰戦争に狩りだされた日記2点と「仁礼中馬稼(軽尻)」の史料がある。
047	小河原郷中文書	明治24年の町村請施行の編成替えにより第1区・小河原東組(現高畑町)、第2区・同南組(現南小河原町)、第3区・同北組(現小河原町)、第4区・同新田組(現新田町)で構成する小河原郷中の共有文書で、昭和6年(1931)以降平成21年(2009)までの史料である。郷中恒例の初集会・議決書類や申合わせ書類、大賦銭割差引々揃帳、決算揃帳や小河原神社関係史料などが主なものである。
048	小河原町区有文書	江戸期から明治期、大正・昭和期にかけての史料である。初出の史料は宝暦13年(1763)の「小河原村未御検地野帳」(本田)であり、検地の実態が記載されている。明治期では太政官布告・布達があるほか、壬申地券から地租改正にかけての下調べ帳や畦畔取調簿がある。また、小河原郷中初集会会議録は昭和36年から平成3年まであり、このほか昭和35年以降の小河原神社関係史料がある。
049	袖山三樹雄家文書	江戸期から昭和期にかけての史料である。江戸期では、寛文6年(1666)2月の「小川原村庄兵衛田畑坪々石高帳」や天和2年(1682)の永代売渡証文ほか質地証文類、宝暦13年(1763)の地押検地関係史料がある。明治期以降では、土地・税制関係史料が多い。
050	駒津悦男家文書	名主関係史料が多く、江戸期から明治期のものが主な史料である。江戸期では、寛文6年(1666)の「仁礼村田畑大水帳」、天明・寛政・文化期の年貢土目録のほか名主関係史料や、文政期以降の間屋・街道交通関係史料などがある。また、寛保2年(1742)戌の満水で「山抜け押出し」の沢水で被害をうけた絵図、用水せぎ川除堤絵図などの絵図がある。明治期では県道模様換之願、亀倉村地内畦畔取調扣などの史料がある。
051	境文雄家文書	江戸期から昭和初期にかけての史料であり、江戸期のものが多い。江戸期では、寛文6年(1666)の「小河原村南組惣高改帳」(指出し検地帳)や享保期の畑売渡証文、宝暦期の地押検地関係史料があるほか、土目録、勘定帳などがある。地押検地の経過を示す検地野帳は、宝暦13年の「小川原村未御検地野帳」があり、帳簿26帳がある。明治期以降では県布達類のほか桑苗・養蚕関係史料がある。
052	大沢英一郎家文書	江戸期から昭和期にかけての史料群であり、肝煎・名主関係文書のほか文政期の学問所・教倫舎(心学講舎)に関わる史料等がある。江戸期では、「寛永の覚(小笠原検地関連)」、「沼目村地詰御帳」などがある。また、教倫舎や心学普及に関わる文書などとして、心学断書、対策、心学問答控書、棚御元根草、御学問所御引渡之時覚御書付、学問所聴人留簿、京都明倫舎関係書簡、心学手扣などがある。
053	丸山行勝家文書	江戸期から明治期にかけての史料であり、名主ほか村役を勤めたときの文書を中心とするものである。江戸期では、文政7年(1824)の「宿方割増刎銭村ゆたい割返し人別帳」、天保5年の「福島村借財人別御書上帳控へ」、天保6年の「借入金三役加判人別元帳」などの史料がある。明治期では、「御用御廻章書留帳」、「西組御年貢名寄帳」、「東組御年貢仮名寄帳」などの史料がある。
054	福島町第六番組所蔵文書	江戸期から明治期、大正期、昭和期・平成に渡る福島町六番組道祖神祭の史料である。初出の記録は嘉永二年(1849)西正月十五となっており、毎年記録が綴られている。(昭和20年から25年の間は終戦のため、農事実行組合長宅で道祖神祭、山ノ神祭を実施したことから、この間の記録を欠く。)なお、平成19年度以降の記録も欠く。

055	野辺町区有文書	江戸期から昭和期の史料である。江戸期では、須坂藩初期の地押し検地帳とされる元和 7 年の「野辺村地詰帳」があり、村石新田の成立に関わる寛文 4 年の「野辺新田辰改帳」のほか享保頃までの新田開発史料がある。このほか、奥山野辺・米持・井上・亀倉四カ村入会山関係史料や用水係争関係史料、倭約規定史料などがある。明治期では、壬申地券発行のための調査・野帳である各所分字亀春帳などの関係小帳簿、丈量誤謬関係史料がある。昭和期では、大恐慌後の失業救済低利資金借用・返済に関わる史料や戦後の青年団活動史料などがある。
056	亀倉町区有文書	江戸期から昭和期の史料である。江戸期では、寛永 13 年の「子歳亀倉村御年貢割付之事」が、明治 3 年(1870)まで一部欠落している年貢割付状を除いて現存している。村の近世史料の大半は割付・皆済状である。このほか、入会山・山林関係史料もある。明治期では、地租改正関係帳簿である明治 8 年の「地順収穫地租・価取調帳」のほか、「丈量誤謬訂正願書」、「脱落地編入願書」などがある。大正期では、青年会関係や養蚕関係史料があり、昭和期では昭和 17 年から同 19 年の「区費収入支出記入帳」などの史料がある。
057	牧久雄家文書	江戸期から昭和期の家業(質貸し、生糸の買い付け、製糸、不動産など)関係史料である。江戸期では、横浜開港直後に生糸を集荷して横浜と上州に移出したり、糸仲間に生糸・繭の仕入金を融通していたことを記した安政 7 年の「店卸調覚帳」がある。明治期では、質借金店卸簿、店卸累年比較表などの金融関係史料がある。製糸関連では、明治初期の生糸輸出状況・売込商人等を記した「横浜生絲改会社輸入高表」や明治 14 年の東行社と第二十四銀行との荷為替・前金借用の約定書のほか河東鉄道の創立の経緯を記したもの、千曲川通船で新潟米が運ばれたことを記した史料などがある。
	牧久雄家文書 追加分	畑小作請証書、田地売渡し証書などの証書類と、封筒、はがきを年月別に束ねた書簡類が主であるが、製糸関係、納税関係、町会議員関係、河東鉄道・電鉄関連の史料がある。史料名としては、「水車之義二付御伺」、「水利使用株売渡ノ証書」、「長野電鉄・河東鉄道合併認可書」、「長野電鉄汽車時刻表」などがある。
	牧久雄家文書 追加分 2	二代牧茂助の家業である製糸業、牧畜業、共同出資の河東鉄道、上信物産会社及び牧茂助家の家屋建築用材・図面・上高井郡所得調査員の調査内容などの史料がある。史料名としては、「明治十三年長野県共進会審査表」、「水車設立願」、「明治 21 年度牛馬売買免許税」、「(仮称)川東鉄道敷設目論見書」、「杉木売渡証書」、「牧茂助家平面図(間取り図)」、「明治三十四年分所得決定高町村別調」などがある。
058	福島新田文書	松代藩領高井郡福島村の新田として開発された「四ッ屋村」、後の福島新田村の江戸期から明治期以降に亘る史料で、江戸期のものが多い。江戸期では、「売渡申田地証文之事」などのほか、四ッ屋村と福島新田の名称の経緯がわかる史料がある。このほか「千曲川除普請関係史料」、「諸夫銀人別割合帳」、「諸夫銀書出し覚帳」、「国役節木船銀御用夫人別割合帳」などの史料がある。明治から大正期では、租税や村使いの史料がある。
059	米山嘉一家文書	豊洲村「第三区」の区長当時、明治 30 年代から大正 11 年を中心とした史料である。村や地区の行政上の予算・決算書類の外、役場からの通知、農会の活動関係の書類が大半を占めている。史料としては、「長野県上高井郡豊洲村明治二十八年度歳入歳出総計予算」、「白露開戦による肥料の高騰で緑肥・堆肥奨励についての依頼」、「明治三十九年県税戸数割賦課等級表」などがある。

060	田中敏治家文書	明治期から大正期の田中儀助の仁礼村における生活に係る史料が主なものである。明治期では、「蚕日記覚帳」、「水車覚帳」、「八幡講無尽簿」などの史料がある。大正期では、「関谷組幹事扣井帳」、「祭典費明細帳」などの史料があり、このほか、「歩兵第三十聯隊満州事変出動図面」などの史料がある。
061	高内鉄弥家文書	明治期から大正・昭和期にわたる軸物、製糸関係史料、書籍等のほか、会員章などの史料がある。製糸関係では、明治、大正期の「製糸工場調」、昭和期の「長野県製糸工場名簿」、「蚕の新品種」などの史料がある。このほか大日本蚕糸会特別会員之章などの史料がある。
062	坂田近右衛門家文書	須坂藩主・藩士の世界をかいま見る史料である。文化・文政・天保期では、「乍恐以書付奉願上候御事」、「御組順席」、「御土蔵御道具帳」、「直格公御隠居様御入用大積」など、安政・万延期では「所々買物調」、「国役御普請御入用控帳」など、文久、元治、慶応期では、「御隠殿御普請入用帳」、「定府并勤番御宛行取調帳」、「寅之御物成金納帳」、「呉服橋御番所御入用元拂帳」など、明治期では、69 人の藩御用達の 2 年 7 月「御用達順席帳」、4 年 8 月の「士族・卒の禄」427 人分の史料などもある。
063	牧七郎右衛門家文書	江戸期から明治期の史料であり、牧家の歴史や近世の須坂の歴史にかかる史料を含んでいる。享保の「(御用金・才覚金などの証文)」は須坂藩と豪商の関係を示す史料であり、「諸用記」「萬日記」などは当時の世相を示す史料である。宝暦期では、「御寺分畑小作入差引扣」、文化・文政期では「御触書扣」、「松代御領鬼無里御林諸事留」、嘉永、安政期では、「差上申御請書之事」、「奉公人御請状之事」などの史料があり、明治期では、「御支配下村々騒動之節見舞扣」、「養蚕中萬日記」などの史料がある。
064	水野寿夫家文書	明治後期から大正初期の製糸関係史料で、当時の金丸製糸工場の経営状況に関する史料である。明治期では、「明治 35 年度製糸賃金内渡支払簿」、「明治 42 年度物品受渡及賃金簿」などがあり、大正期では、大正 5 年の「製糸賃金支払簿」などがある。
065	黒川真家寄贈文書	江戸期から明治期にわたる史料群で、須坂藩士黒川孝行に関わる須坂藩関係史料を主とした史料群であり、幕末・維新时期の史料が中心である。江戸期では、須坂藩史料として貧弱な分野であった分限帳の一つである「御家中順席分限帳」(天保後期～弘化)があり、このほか安政期の勤番目付番士であった黒川孝行関係史料、呉服橋御門心得方・御番士勤方などがある。明治期では、初年の元須坂庁構内士族住居屋敷地地下げ願や西屋敷に関する史料、第八小区戸長関係史料、秩禄処分関係史料、奥田神社関係史料がある。
066	鈴木敏司家寄贈文書	明治から昭和期にわたる史料であり、日記と文書に分けられる。日記は明治期の懐中日記、大正期の当用日記(一部重要日記、)などによるもので、ポケット版の手帳ながら市誌の内容を裏付ける具体的事象がメモした近代資料である。
067	上原太郎家文書 (塩屋文書)	幕末期から昭和期にわたる味噌・醤油醸造業等に係る史料群である。江戸期では、「こんれい祝儀納覚」、「元服祝儀」などがある。明治期では、須坂藩 14 代藩主(直明)となる恭之進が中野五郎大夫にあてた明治元年の「舌代」(書簡)や明治 3 年から同 45 年までの土地集積状況を示す史料としての包紙「明治年間田畑屋敷地買入証文」(48 本の買入証文)などがある。また、塩屋醤油店の店名による「掛取り帳」、「売上帳」などの史料がある。

068	坂本家関係文書	「坂本家文書目録」(006)にかかわる史料で、幕末期の坂本家が経営を拡大し江戸に進出して、商取引を展開している状況の一端示す史料である。文政、天保期では、「御服物御通」、「萬御通帳」などがあり、安政、文久期では、「道中控并同年小遣帳之写」、「新吉原町浅草田町御貸附金調帳」などの史料がある。
	坂本家関係文書Ⅱ	坂本家の土地所有にかかわる実態を垣間見ることができる貴重な史料群である。本文書には近世前期の史料は見られず、元文4年(1739)10月の史料が古い史料である。宝暦・天明期以降の史料がしだいに多くなり、文化・文政・天保期は大量となり、弘化・嘉永期まで続く。史料の大半は、「御年貢皆済状」や「御年貢皆済済」であり、小作関連の史料も見受けられる。わずかだが書簡類もある。
069	丸山正道家文書	江戸期、大正期の史料が主である。江戸期では、「入用覚」、「差上申連印証文之事(下書)」や康楽寺関係書簡の史料がある。大正期では、書簡(封書)がほとんどである。このほか、古文書の複製資料などの史料がある。
070	真木序家文書	江戸期から昭和期の書籍と絵はがきなどによる史料である。江戸期の書籍には、『軍用記』(全巻7巻)などがあり、明治、大正期では、『絵入古今明細年代記 全』、『上高井歴史 全』などがある。また大量の絵はがきは、明治から昭和にかけて当時の世相を知り得る史料である。
071	牧幸一郎家文書	江戸期から昭和期にわたる史料群である。江戸期では、天文8年(1539)の「元重聞書札方古実一」などのほか、「紅葉山下御門議定」、「江戸流行料理通大全 坤」など文化期以降の史料が中心である。明治期以降大正・昭和期では、「插花人名録」、「插花百種十體 天地」や「謡曲會諸事控」などの華道・插花(遠流流插花)や謡曲関係史料が多くある。このほか行政関係史料として、昭和期の昭和3年から13年に至る「須坂町要覧」、役場庶務規定、事務報告書、「須坂町常会史料」、「須坂町会会議録」など須坂町町会関係史料がある。また、日中戦争以降の国策宣伝のためのポスターが多数ある。
072	市川幸夫家文書	江戸期から明治期以降にかかる史料である。江戸元禄期では検地帳や「塩野村灰野方八ヶ村山論絵図」などがあり、文化・文政期以降では、「下灰野名寄御改帳」、「壺万石御一備練兵略譚 全」などの史料がある。明治期では、灰野村・園里村の役職者としての史料が多く、「管下下灰野四人之者硫黄試掘願」、「請願巡査配置願」などの史料がある。また、江戸期を含め、科学・医学・数学関係の書籍資料や史学(日本史・中国史)関連の史料がある。このほか「谷川用水水門設定立会事件」、「谷川用水新堰取潰請求訴訟」等の訴訟関係史料がある。
073	墨坂神社文書	墨坂神社を支えてきた旧小山村にかかわる村落関係史料で、江戸時代からの名主家文書と明治以降の小山村(明治25年以降は豊丘村)関係史料群である。江戸期では、山論に関する文書、「小山村亥新田改帳」、「屋部組名寄帳」、「寿泉院境内須坂小山地境絵図面」や、安永から幕末維新期までの「未引高覚」ほか小山村引高にかかる帳簿がある。明治期では、村送り一札など戸籍関係史料のほか土地丈量調査に関する帳簿や「丈量誤謬野取帳」、「耕地丈量野取帳」などの史料がある。
074	(欠番)	

075	吉池一彦家文書	江戸期を中心とした松代領の支配関係に関わる名主家文書などの史料群である。代官所・職奉行所・道橋方役所・郡奉行所から発給された文書に対する「受(請)取覚」や、「御蔵粉納」「玄米納」などの受取に関連する史料、諸勘定の「割合帳」、「割合人別帳」などの史料がある。このほか、衣類反物・染物・薬種・御茶・材木・蚕種などの商取引にかかわる史料や、食べ物など個人消費にかかわる史料などがある。
076	浦野康彦家文書	江戸期中心の文書などと典籍、浦野氏系譜関連、巻・軸からなる史料であり、須坂藩との関係史料も多い。江戸期では、「東昌寺開基並世代記控」や「東山道出張日記」、「須坂藩感状」などがある。また、「信濃國地震満水録」、「須坂町縮絵図」などの史料のほか、奥田・招魂両社に関する史料として、「奥田招魂社両社寄附地証書」がある。また、心学関係文書・桃源舎錦洞評・須坂藩家老日誌・見聞録などは当時を知り得る史料である。
077	永井順裕家文書	明治 22 年 4 月から同 31 年 4 月までの小山村および豊丘村の議会関係文書であり、両村合併時からの議会選出や村税関係についての史料である。
078	岡澤健治家文書	昭和 18 年(1943)、19 年の戦時下における豊洲村高畑地域の農村生活・農業生産にかかわる通達類・メモ類が中心となっている。食糧増産、賃金統制、米穀類、菓工品の供出、肥料・農薬・農業機材の配給、勤労働員の請入計画など戦時下の農村の実情に係る史料がある。
079	関谷和子家文書	明治 13 年 11 月から昭和 31 年までの近現代の史料である。明治期では、「入〇(イマル)関谷商舗」の蚕種関係の史料が多く、大正期の共同水汲み場史料などがある。このほか、アジア・太平洋戦争後の電気機器共同組合関係の史料がある。書籍関係では、明治期の教科書類と須坂高等女学校の教科書類が多い。このほか、戦時下の高女教育の内容を知り得る昭和 17 年 3 月発行の『報國』創刊號(長野縣須坂高等女學校報國團)などの史料がある。
080	神尾經子家文書	明治期から昭和期にかけての家業の製糸業関係の史料が多い。明治期では、明治 6 年「約定仕証書」、同 23 年「製糸製造所鑑札」など、現在地(本上町)での製糸業関係史料がある。大正期では、購入した繭の数量及び価格などを調査した商工省調査などがある。昭和初期では、製糸業概略報告書、女工実態調査及び同作業日数や戦後の昭和 21 年農林省・全国農業会公布の「農地改革について」などの史料がある。書籍類では、文政・天保期の『千社の多和式連』、明治期の『あさかお日記』などの和装本や文部省監修尋常科教科書などの史料がある。
081	山岸孝爾家文書	慶長期から昭和(戦後)までの宮司家所有の史料群ではある。慶長 12 年の「山岸図書頭吉具風折烏帽子狩衣着用裁許状」(二代吉具)をはじめとして裁許状・宣任状・勅許状・口宣案がある。また、御本所京役所・江戸役所との遣り取り書簡も多数ある。寛永九年の「従往古第一番記録」、宝暦六年の「従往古第二番宝暦之記録」は墨坂神社・八幡宮と小山村などや諸神社とのかかわりを示す記述がある貴重な史料である。このほか、宮司家の家政に関わる史料も多い。
082	南原町区有文書	江戸期から昭和 30 年代までの史料である。江戸期では、「年代入用帳」のほか、天保から慶応までの墨坂神社八幡宮における祭事・相撲興行などの史料がある。また、明治四十五年～大正十一年までの南原町会計史料が揃っており、青年団(若者組)関係として、消防・市川(百々川)堤防修繕・夜学関係の史料がある。このほか昭和戦前期の「須坂町事務報告書類綴」・「通達書類綴」などがあり、「通達書類綴」の中には、町役場から出さ

		れた貴重な通達文書類が含まれている。
083	信州須坂町並みの会 文書	主に昭和61年～平成20年までの資料である。「信州須坂町並み通信」、総会資料、全国町並みゼミ関係資料、会設立10周年記念の「東山魁夷画伯詩碑建立」関係資料、行政との建物保存をめぐる文書類などが豊富にそろっており、信州須坂町並みの会の多岐にわたる活動内容を詳細に伝えている。また、それらにかかわる写真類も豊富で、町並みフェストの様子を伝える写真類が大量にある。
084	丸山家文書 (須坂市指定有形文化財)	幕末の史料が大半を占め、明和、天明の史料のほか、明治初年代の史料もある。丸山家は、丸山巨宰司能政から、親・子・孫の三代にわたり須坂藩の家老をつとめ、九代直皓から十三代直虎までの藩主に仕えたことから、公私にわたる藩主及び藩主一族からの書状のほか、辞令類が多い。特に幕末動乱期に藩政改革を断行した直虎関係の書状類は貴重な史料である。また、丸山舎人辰政は歌人であるほか香道・焼物(吉向焼)・囲碁など幅広い分野で活躍した文化人であり、香合わせの記録や和歌資料がある。
085	西貝佳雄家文書	文政期から明治期にかけての史料である。「時の鐘」の敷地に関する史料のほか、文政10年の「鐘堂絵図面仕立」や明治5年の「須坂新町一、二丁目会図面」など地図類、蚕糸業関係史料がある。また、昭和63年長野市立博物館第63回企画展に掲載された「Ⅲ時の鐘(2)旧須坂藩の時の鐘」の複写史料がある。
086	山上茂明家目録	米子鉱業所に勤務していた茂明氏の亡父、山上邦茂氏が生前収集・整理・保存していた米子鉱山関係資料であり、昭和初年代～40年代までの資料である。鉱山鉱区図・機械設計図・索道関係などの図面類と鉱業所従業員・作業員の写真、米子鉱業所の絵葉書類が豊富に揃っていることが特徴である。また、米子鉱山全面閉山後に組織された「米子山カンテラ会」関係資料は、鉱山の歴史を記録し、山で働く人々の姿をとどめる具体的な資料となっている。
087	金子修慈家文書	幕末期から明治期に至る史料である。天保4年の「屋敷地譲渡申質地流證文」が最古のものであり、安政2年、明治8年の「屋敷地絵図面」などがある。また、明治4年金子成三が長野県病院医局詰めを命じられており、「種痘術免許状」、「醫局詰申付状」など医療・医局勤務に関わる史料、書簡がある。その他、「佐久間象山調書写附櫻賦」や自作の漢詩分や和歌の草稿に添削を加えた史料などがある。
088	田中駒治家文書	穀町田中本家の分家として田中下屋敷と呼ばれ、油問屋・製糸業・酒造業など幅広い事業を展開してきた。江戸中期～幕末の文書は婚礼や誕生・元服の祝儀、葬儀や法事など家族や家政に関わる「諸事控」「買物帳」のほか旅館を営んでいたことを示す「御献立帳」がある。明治から昭和にかけては「生繭荷請帳」「製糸記載簿」等製糸業関連の記録、穀町の区役に関わる手控などがある。明治20～30年代に発行された「生糸商況報告」など製糸関係の新聞が多く残されている。長野農工銀行や信濃電気、日本郵船、鐘淵紡績など企業の営業報告書などがある。
089	新町区有文書	明治、大正、昭和にかけての新町区に関わる史料である。明治5年の「須坂新町壱丁目會図面」、「須坂新町貳丁目會図面」は、戸別に間口・奥行・敷地面積を測量した図面をもとに作成したものである。大正10年以降の新町区規約、役員名簿、財産台帳などがあり、大正10年から昭和18年までの区会・伍長会決議録は、その間の時勢の成り行きがわかる貴重な記録である。その他「県道側溝修繕工事」陳情書などがある。
090	牧智家文書	明治20年の「簡易水道の敷設」にかかわる史料で、須坂町水利工業事務所惣代の牧茂助の保管していた史料群である。

091	石田久三家文書	石田家の祖先久七、熊吉が、班に上納金を献上した褒状が4通ある。
092	大光楼(久田家)文書	幕末期から明治期の旅籠屋「大光楼」を営んでいた久田武兵衛・久田治兵衛関係の書籍類(俳諧・活花・浄瑠璃本など)とその親族の書簡・写真・絵葉書が大半を占める。
093	大谷町区有文書	寛永5(1628)年9月の「大谷高橋辰改帳」が最も古い史料で大変貴重なものである(元禄12年5月18日写)。また、正徳4(1714)年6月の「信濃国高井郡塩野村与同郡灰野村小山村塩川村屋部村大谷村高橋村須坂村坂田村山論裁許、絵図」が残されている。明治から昭和初期までの史料では、「区費徴収帳」や「区費収支決算帳」などの区費にかかわる史料が目立つ。ほかにも明治9(1876)年前後の土地関係史料が多く残る。明治11年から水車新規設置に関わる訴訟が行われているが、江戸期の文書を証拠書類として提出するなどかなり大掛かりな訴訟であったことが窺われる史料がある。
094	須坂小学校旧蔵書籍	漢籍類(260点)と明治以降の教科書・書籍類(360点)からなる。漢籍類は主に江戸期に出版された書籍51部(26点)で、和歌・国学などの和書は含まれていない。漢籍類には歴史分野、漢詩文分野、思想・治世に関わる書籍、美術工芸分野の書籍など、多様な文化分野にわたっている。各冊に押されている蔵書印は20余種を数えるが、五教館・立成館という二つの藩校の蔵書と藩主堀家の蔵書、および篤志家の個人蔵書の三つから構成されていると考えられる。教科書・書籍類は明治期・大正期の教科書・教授書(学習指導書)と児童書類がほとんどである。
095	相杜神社文書	明治から昭和20年代までの相杜神社および相森区関係の史料が多く、江戸期の史料は全体量の中では少ない。明治中期から昭和20年代までの史料の中では、相森区の諸経費に関連する史料が多い。また、相杜神社の会計関係史料が多く残る。さらに、日中戦争・アジア太平洋戦争にかかわる史料も多い。
096	松澤角太郎家文書	①写真、②書籍・銀行営業報告書外、③軸・雑件に大別される。 ①写真資料は本文書の中で重要なコレクションであり明治後期から昭和初期にかけて記念写真などがある。②では、角太郎が支店長として勤務した小布施銀行(ほかに墨坂銀行)の明治36年から大正4年にかけての営業報告書が興味深い。③では、俳画「芭蕉翁」や大正13年製作の「日滝村全図」(軸仕立て)などがある。
097	小山町区有文書	旧須坂教員保養所敷地に関する登記関係、明治末期から大正にかけての共同貯蓄預金に関するものと、アジア太平洋戦争期間中の国債購入の割り当てや配給品の割り当てに関する文書である。
098	神林製糸場文書	「神民」と記された神林製糸場の繭仕入帳2冊と判取帳1冊及び工女通い帳がある。
099	金井平吉家外収集文書	古書店から須坂市誌編さん室において購入した文書である。 井上村の金井平吉が記した明治20～30年代の『萬日記簿』11点と、金井平吉とは無関係な文書3点である。
100	高橋庄右衛門家文書	高橋庄右衛門が出資していた株式会社の決算報告書類が地元の金融機関を中心に184冊ある。そのほか、傭夫帳、通い帳といった事業(金物商)に関する者や典籍がみられる。
101	塩川町区有文書	明治期から町村合併前後の昭和30年代までの史料が多く、江戸期の史料は少ない。江戸期の史料は、須坂藩への献上金や助成金に対する「褒詞」「賞詞」など16点が残る。明治期から昭和30年代までの史料の中には、塩川区の運営にかかわる史料が多

		く目立っている。このほか明治期の資料には「村絵図」「地番絵図」等の土地関係史料(絵図)が多く残る。
102	本藤一衛家文書	土屋坊村は本村の綿内村からの不当な扱いに長年苦勞していた。そこで文久3年(1863)8月8日から始まる「在府日記」は本藤惣吉が名主安右衛門とともに江戸に行き、村の実情を老中板倉勝静に駕籠訴した 11 月 29 日について克明に記録されている。また、幕末期須坂藩の藩政改革や、千曲川犀川の川除築堤普請訴訟に関わる史料として、土屋坊村の村役人を勤めた本藤豊八及び本藤惣吉(宗吉)の日記類が残る。
103	栃倉組文書	本文書は、仁礼村に合併前の栃倉組青年会が所蔵していたもので、青年会が開催した夜間学校で使用した教科書類及び貸し出しを行った書物のほか、青年会活動に関する文書となっている。
107	山崎良枝家文書	山崎良枝氏が保管していた高津富一氏の日記など。高津富一氏は 1894 年(明治 27)東京に生まれ、1922 年(大正 11)第 31 回高等文官試験に合格し、行政職として大正 12 年に外務省に入省した。第 2 次世界大戦前後ドイツ、中国などに駐在し、外交官の目から見た状況などを日記に残している
108	新田町区有文書	1906 年(明治 39)に作成された豊洲村全図である。
109	神林公明家文書	これまで蔵書として整理していたが、閲覧等供していくため地域史料に分類した。『寫眞週報』が第 96 号から 212 点ある。
111	関野幸子家文書	関野幸子氏の義父正平氏と妻たみ氏始め親類、友人等とやり取りした手紙・葉書など 32 点。正平氏が召集された昭和 19 年の手紙が中心。
112	上松徹家文書	上松氏が古書店で購入した須坂領内回付文書。

※104～106 は整理中

2 移管行政文書所蔵件数(2024 年度末時点整理済み)

項目		件数
移管行政文書	平成 18 年度までに移管	175
	19 年度移管	14
	20 年度移管	378
	21 年度移管	345
	22 年度移管	265
	23 年度移管	425
	24 年度移管	166
	25 年度移管	38
	26 年度移管	240
	27 年度移管	10
	28 年度移管	16
	29 年度移管	79
	30 年度移管	65
	令和 1 年度移管	221
	2 年度移管	50

項目		件数
旧町村別文書	須坂町(日滝村含む)	1,836
	豊洲村	196
	日野村	355
	井上村	1,126
	高甫村	347
	仁礼村	697
	豊丘村	1,107
	東村	549
	小計	4,176
	合計	6,213

3 年度移管	311
4 年度移管	276
5 年度移管	62
小計	3,136

3 もんじょ紹介一覧

No.	史料名	主な内容
1	001 中澤吉四郎家文書（1） （須坂市指定有形文化財）	須坂村から須坂町へ
		横浜開港と須坂
		須坂における自由民権運動のはじまり～国会開設に向けて～
2	013 米持町区有文書	米持区の位置と字名について
		米持区が寄贈した郡役所前庭のソメイヨシノ
		米持「盛学会」(夜学会)の概要について
		明治 45 年の米価高騰と区民への救済配分金
		住民が見積・施行した水害復旧工事
		起返り地の増大
		物産取調控帳について
3	016 相之島町区有文書	河川と共生してきた村 一位置と字名
		用水確保に苦勞した相之島村
		松代領と天領の混在
		相之島の共有地(割替地)
		昭和恐慌下の相之島
		千曲川を渡る 一渡船業務譲渡証
4	018 九反田町区有文書 017 堀内秀雄家文書	(九反田町区有文書)
		市川と鮎川合流点の村 一位置と字名
		洪水時分流していた百々川上流
		鮎川変更碑の由来
		(堀内秀雄家文書)
		文政期の福島村 一その一断面
		年貢金運びの福島宿一泊
		千曲川堤に楮植付けめぐって
5	023 高梨町区有文書 024 斉藤和義家文書 022 浦野治郎家文書	(高梨町区有文書)
		自然提防上の村 一位置と範囲・字名
		里村と十一ヶ村入会山
		(斉藤和義家文書)
		投票で村役人選出 一文政期の福島村
		(浦野治郎家文書)
		善光寺地震 一御用并町方留
6	021 山下徹家文書 025 太子町区有文書	(山下徹家文書)
		山の『桃山紀』

		薬屋さんの守護神「神農神」
		須坂にも伝わる田沼政治への批判
		(太子町区有文書)
		太子町組の地方自治への歩み
		太子堂と一体の町づくり
7	026 井上町区有文書	井上町の位置と範囲・字名 一地名分布図
		大笹街道裁許絵図
		井上村の中馬稼ぎ
		棟札から学ぶ
		出席を強要された戦時下の常会
		廻状を書き留めた「御御用留帳」
		地租改正について
		富岡製糸場に向かった工女たち
8	029 村山町区有文書 030 八重森町区有文書	(村山町区有文書)
		村山町の位置と範囲・字
		櫻樹栽植誌から
		村山村の共有割替地 一文久 2 年の例
		常習水害地に待望の内務省堤防
		悪水路堰敷をめぐる村々共存の事例
		(八重森町区有文書)
		八重森町の位置と範囲
		上信越道の町分断通過反対陳情書
		酒ナシ日ノ件
9	035 岡村博文家所蔵文書	地租改正の最終段階 一命じられた「類外地調査」
		明治 19 年のコレラ大流行
		騒然とした世の中に 一博徒の横行
		須坂町の文明開化 一ガス灯と並木
		小山村止善学校敷地願 一入河原伊勢社境内
10	032 福島町区有文書 027 塚田茂博家文書	(福島町区有文書)
		幕末期、福島村から松代藩への調達金
		飢饉に備えて米穀の貯蓄 一社倉
		分厚い和綴「御水帳」からの息づかい
		第二次大戦前夜・敗戦後の福島
		神社明細取調べ書
		(塚田茂博家文書)
		苦しむ福島宿 一賄い金未納の督促状
11	020 中島町区有文書	地位段級明細表
		暗渠排水にかける必死の思い
		農兵の取立て
		中島村の絵図を見て

		「近藤照真師碑」について
12	031 沼目町区有文書 034 五閑町区有文書	(沼目町区有文書)
		村役書上帳
		用水の汚れに苦しんだ沼目
		沼目薬師と飯縄神社
		(五閑町区有文書)
		五閑区史料から
13	038 佐藤英治家文書	取米に付加された夫銭
		絵図が語る村の歴史
		東京出府に付日記
		須坂藩が莫大な借金
		佐藤家の土地集積
		人別改二付七十才已上年齡取調書上帳
14	039 日滝史蹟保存会文書	日滝村全図について
		日滝原への出作り農民のこと
		安政七年御改革献金書上げ帳(日滝村)
		水車事故解除訴訟事件(明治 10-13)
		常会資料にみる戦時下の金属回収
		太平洋戦争末期と敗戦後の動き
15	041 市川喜太郎家文書 040 竹前源治家文書	(市川喜太郎家文書)
		険しく曲がりくねる三原道 一灰の牛が須坂の米穀を運んだ
		お百姓さんたちの祈りの世界 一降雨・止雨を祈る風習
		豊丘村系図に見る合併分離事情
		大正 6 年上高井郡調査と平成 23 年比較 一旧村別人口・世帯数
		(竹前源治家文書)
16	043 仁礼会文書	米子硫黄鉱山開発はこうして始まる 一宝暦年間の場合
		むらを支え、むらを動かした若連
		入会山権利証、「山札」
		大笹街道での一事件
		村民の困窮、もはや凌ぎ難し 一御用達金の返金をひたすら歎願
		太平洋戦争前夜の仁礼村の動き
17	048 小河原町区有文書 047 小河原郷中文書 049 袖山三樹雄家文書	山岸右京と高仁神社鳥居立替
		御境回り昼休み御本陣御殿普請
		御部屋様(殿様夫人)湯治の際の昼賄い
		小河原村の宝暦検地野帳
		明治初期の蚕種の需要
		明治 13 年書き上げ「小河原村誌」
18	051 境文雄家文書 052 大沢英一郎家文書	付 柳清水に関する陳情書ほか
		(境文雄家文書)
		和宮の通行について

		明和元年肝煎から名主へ名目変更 女人詰(おんなひとづめ)御改下帳 小河原村 明治以降の伝染病 (大沢英一郎家文書) 中馬稼ぎ出願の村々 日野村翼賛壮年団 金銭出入帳と傭人控帳
19	065 黒川真家寄贈文書	須坂藩館のゆくえ 一須坂庁、そして払い下げ地へ 「立町菅公略縁起」と立町天神社 『確誓録』と奥田神社敷地の寄進 俳諧資料・明治期文芸資料
20	056 亀倉町区有文書	亀倉の地図(1/10,000)と文化財マップ 「年貢割付状」と代官名一覧について 亀倉日記 山の権利をめぐる 公害関係 米子山絵図面(文化元年)からの発見
21	072 市川幸夫家文書	江戸期の文書 明治期の切絵図 訴訟関連 書籍・冊子類
22	002 小田切幸一家文書 (追加分Ⅰ・Ⅱ)	江戸時代の五人組制度「惣助(介)一札」から 伊能忠敬測量隊へ差出文書 豆腐「口達覚」 小田切辰之助の経営状況「所得金高届」から 埼玉県からの生繭買い入れ「生繭送券」「清算記」から 小田切家における榎の調達「榎通帳」から
23	075 吉池一彦家文書	支配・藩御用 村のくらし 江戸便り 文政4年諸冊物 附 京都・大阪の宿屋「引き札」
24	002 小田切幸一家文書 (追加分Ⅰ・Ⅱ) ー小田切家の山林所有と経営ー	土地家屋買入證書入 小林永太郎間山村山林共植等 所有地反別地價金調
25	神林公明家旧蔵図書 『寫眞週報』	表紙特集 紙面特集
26	088 田中駒治家文書	田中下屋敷と製糸業 日露戦争と須坂の人々 時代は大正浪漫 須坂新報など

27	2022「須坂に残る戦争資料」展 －国策宣伝ポスター類と『寫眞週報』－	国策宣伝ポスター類(21 点)	
		『寫眞週報』の表紙から(40 点)	
28	2023「須坂に残る戦争資料」展 －国策宣伝ポスターと関連『寫眞週報』－	国債・貯蓄運動(12 点)	
		陸軍記念日ほか(8 点)	
		海軍記念日(3 点)	
		航空日(6 点)	
		日独伊三国同盟(5 点)	
		長野県関係(11 点)	
		食料増産(6 点)	
29	095 相杜神社文書 101 塩川区有文書から	相杜神社文書	村送り状
			用水出入関係(水争い)
			相杜神社御本社関連
			相杜神社修繕関連
		塩川区有文書	褒詞・褒状
			永隆寺土地関連
			収獲地価地租
			日野村大字塩川之内絵図
30	2024「須坂に残る戦時資料」展 －ポスター・絵葉書・写真類と著名画家たち－	著名画家や図案家が描いたポスター、絵葉書など	
31	須坂市制 70 周年記念展 「所蔵資料に見る須坂市誕生と町村合併の歴史」	須坂市域の旧町村文書に見る、大正から昭和の大合併の記録	

年報第 7 号 2024 年度須坂市文書館年報

発行年月 2025 年(令和 7)10 月

発 行 須坂市文書館

須坂市大字須坂 812 番地 2

(旧上高井郡役所内)

TEL 026-285-9041

FAX 026-285-9175